

## 生活単元学習指導案

昭和56年12月10日 木曜日 3校時

中学部3組 男3名女2名 計5名

指導者 竹下辰次 下原智子

### 1. 単元 「年の暮れ」

#### 2. 単元について

- (1) 精神遅滞児は、自然・社会事象への関心が一般に低く、自分たちのごく身近な事象にかぎってのみ関心を示す程度である。特に季節感に乏しい子どもたちは、季節や気候にうまく順応していけない場面にしばしばぶつかるときがある。したがって自分たちの生活と自然や社会事象を関連づけて考えていこうとするような積極的な態度はみられない。

12月になると、生物の活動が一般的に弱まり、落葉樹や虫類は冬ごもりを始め、人間は暖房を求めるようになる。また火災予防週間、歳末助け合い、歳末大売出し、年賀状受付、冬休み、クリスマス、もちつき、大晦日などの社会事象面で年の暮れを感じる。このように季節の変化が生活の仕方を変え、12月が一年の締めくくりの月であることをふまえて、この時期の自然・社会事象への関心を高めることは意義あることと考える。

本単元では、冬の生活、冬の遊び、年末の様子を中心に、避難訓練、動植物の観察、たこつくり、たこあげ、すごろく作り、すごろく遊び、暮れの街の見学、年賀状つくり、もちつきなど、直接子どもの興味や関心に基づいた具体的な生活経験をさせることによって、協調性や自主性を高めたり、情緒の安定を図ったり、自己表現能力を高めたりすることができ、楽しい充実した学校生活をさせることができると思う。

ところで、冬の遊びは、すごろく、トランプ、かるたとりなど複数で遊べるものが多く、集団の中で自然に好ましい人間関係ができやすいし、身近な材料を用いて、自分たちで作れるものが多く、作る過程で、長さ比べ、測定、切断、接着、描くなどの経験をさせ、作る喜び、作ったもので遊ぶという成就感、満足感を味わわせることもできる。年賀状、クリスマス、冬休みについては、一年の末であることを理解させることによって、一年間の反省と新しい年への希望と抱負を持たせることができると思われる。

以上のようなことから、集団の中での人と人とのかかわり合いを中心に活動させることによって、協調性、持続性、集中力、集団参加能力など社会に適応する基本的な諸能力が育ち、生徒たちが、自分たちで計画したり、作ったり、話し合ったり、遊んだりする活動をさせることで、自主的に活動できるようになると考え、この単元を設定した。

- (2) 本学級は、1年男子1名、女子1名、2年男子1名、3年男子1名、女子1名の計5名で編成され、知能指数は22～86、精神年齢は3才3カ月～10才2カ月で、運動能力、身体的機能、知的能力等あらゆる面で能力差が大きい。

本単元に関する実態の概略は次のとおりである。

四季が春夏秋冬からなり、現在冬であることを理解しているのは、S・J 1人であり、他の生徒は、季節に関する認識は足りない。しかし寒くなると「寒いね」といい、暖を求めて日当に出ている姿を見かける。生徒たちは、冬になると落葉する植物があることやかぜにかかりやすいこと、ジャンパーや手袋等をつけることなどは知っている。しかし落葉した植物が生きていることや、かぜの予防法、気候の変化と服装の関係についての認識は足りないようである。

年末が正月を迎えるためにあわただしいことや年末における自分の役割についてはS・Jを除き、ほとんどわかっていない。年末年始には、クリスマス、もちつき、お正月などがあり、楽しいと考えているが、その意義等についての理解は不十分である。

冬の遊びとして、たこあげ、こままわし、すごろく遊び、トランプ遊びなどがあることは知っているが、それらで積極的に遊ぼうというところまでは至っていない。

以下生徒のひとりひとりのおおよその実態を示すと次のようになる。

		K・T (1年男)	S・C (1年女)	M・K (2年男)	S・J (3年男)	C・S (3年女)
知能指数 (田中B)		73	31	31	86	22
精神年齢		8 : 4	4 : 1	4 : 3	10 : 2	3 : 3
「冬の遊び」で 知っているもの の 名 前		・かまくら ・スキー ・雪だるま	・こま	・トランプ	・雪合戦・雪 だるま・トラ ンプ・スキー ・たこあげ・ まりつき・す ごろく・こま	・たこあげ
す ご ろ く 遊 び に 関 連 し て	「すごろく 遊び」を知 っているか	は い	は い	は い	は い	は い
	「すごろく遊 び」をした事 があるか	は い	は い	は い	は い	は い
	さいころ 投 げ	投げられる	投げるのにち ゅうちょする 「さいころ」 を手からはな せない	投げられる	投げられる	投げられる
	目の数の 理 解	1～6まで理 解できる	1～6まで理 解できる	1～6まで理 解できる	1～6まで理 解できる	1だけ確実、2 ～6は不確実
	出た目の数 と駒すすめ との対応	1～6までで きる	1～6までで きる	補助をすると 1～6まです めることが できる	1～6までで きる	1こずつ対応 はできるが目 の数ではとめ られない
成 績 (順位の) 理 解	1位から6位 まで理解でき る	順位がわから ない	1番と最後は 理解できる	1位から6位 まで理解でき る	順位がわから ない	

	K・T (1年男)	S・C (1年女)	M・K (2年男)	S・J (3年男)	C・S (3年女)
協 調 性 役 割 分 担 責 任 感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれとでも仲よくする</li> <li>・役割分担はふつう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消極的であるがだれとでも一応のかかわりはある</li> <li>・責任感は弱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれとでも仲よくなれるがかかわりかたは浅い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー的存在である</li> <li>・役割などは忘れっぽい</li> <li>・責任感はふつう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さそわれたら人とかかわりはもつが浅い</li> <li>・役割は手助けがいる</li> </ul>
自 主 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主性はあまりない</li> <li>・指示には従う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的にやることはあまりない</li> <li>・指示には従う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示にはよく従う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考え行動できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示がないと自分から行動はとれない</li> </ul>
感 情 表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喜怒哀楽の表情がわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情の変化が激しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもほがらかである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ときおり怒りだす</li> <li>・平静は明朗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ささいな事でメソメソするときがある</li> </ul>
昼 休 みの 遊 び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭でボールけりやソフトボール等をし、自分でいろいろな遊びができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽やマンガに興味を示し、見たり聞いたりしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの話や遊びを聞いたり見たりしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの中心になりボールけりやソフトボール等色々な遊びをしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘いがなければいつまでも一人でいる</li> </ul>
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばの出しはじめをどもる時がある</li> <li>・めったに感情を表出しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話をする途中からとんでもない非現実的な話題へそれることがある</li> <li>・陽気な性格のようであるが突然メソメソしだすことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構音障害のためか発音不明瞭であるが話しをしようとする意欲が強い</li> <li>・友だちとかかわりもちたがっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はきはきしている</li> <li>・友だちの世話をよくするが基本的な生活習慣においてだらしないときがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的に話したり行動することはめったにないが話しかけると答える</li> <li>・発音不明瞭である</li> <li>・指示しないといつまでも無為にすごす</li> </ul>

(3) 以上のようなことから、この単元では次のことに留意して指導にあたりたい。

- ① 本学級は個人差が大きいため、ひとりひとりの生徒の実態を的確には握し、能力に合った指導をしたい。
- ② 冬の生活と年の暮れの様子を学習することによって、季節や年末と自分たちの生活との結びつきを考えさせようとするのがねらいである。したがって他教科や領域との関連を十分図りながら指導にあたりたい。

- ③ 友だち関係を好ましいものにするとともに仲間意識を高めるために、グループで製作したり、ゲームをしたり、見学したりする活動を多くさせたい。
- ④ 冬の生活では冬の天気や気候の特徴をとらえさせ、日常生活の指導、家庭との連携を図り、火災予防や健康な生活について理解を深め実践化につながるようにしたい。
- ⑤ 生徒たちが一つの目標に向かって、意欲的に活動し、成就感を味わえるようにするとともに集団の中での好ましいかわり合いを持ったり、自発的に活動したりできるように自分たちで遊ぶものは自分たちで作る場を設定したい。
- ⑥ 今年も元気で生活できたことを喜び合い、お世話になった人に感謝し、新しい年に希望をもたせるために、4月以降の学校・学部の行事を思い出すごろくにしたり、年賀状をかかせたり、クリスマス会で思い出を話し合ったりさせたい。
- ⑦ すすんで年賀状を書こうという気持ちを育てるために年賀状の意義を理解させるとともに正しいあて先を書かせたり、ポストに投函する活動を重視したい。
- ⑧ 年末のようすに気づかせるために商店の大売出しのようす（のぼりや飾り）や買い物客でごったがえす街のようす、店先で売られている品物、歳末助け合いのようすを見学させたり、買い物を経験させたりしたい。
- ⑨ 冬休みを楽しく、きまり正しく過ごし、年末年始に自分でやれる仕事をすすんでしようとする気持ちを持たせるため、生活の計画を立てさせるとともに、お客さんの応待の仕方も指導したい。
- ⑩ たこ作りやすごろく作りは、美術や作業学習と関連を図りながら指導し、協調性や持続力、集中力、表現力などを高めるため作る過程を大切にしたい。
- ⑪ 教え合い、助け合う活動を重視し、そのための手だてを工夫する。
  - ア. 能力の高い生徒には、教える（援助する）ことに喜びを味わわせたい。
  - イ. 遅れている生徒には、勇気を出してたずねるようにさせたい。
  - ウ. 役割分担を明確にし、ひとりひとりに責任をもたせる。
- ⑫ たこあげやすごろく遊びが昼休みや家での遊びに発展するようにしたい。

### 3. 目 標

(1) 年の暮れの自然・社会事象への関心を高め、一年間を反省し、新年に対する希望と抱負をもたせる。

(2) 冬の遊びやクリスマス大会を、自分たちの力で計画・準備・製作・実践することを通して自主性・協調性を育てる。

### 4. 指 導 計 画 (全 41 時間)

	小単元名	主 な 学 習 活 動 ・ 内 容	時 間
一 次	冬 の 生 活	1. 火災の恐ろしさについて話し合い、火事になった場合の対処のしかたを知り、避難訓練に参加する。(3) ・消火器 ・放水のようす ・消防車 2. 冬の天気や動植物の様子について話し合う。(2) ・気温の変化 ・雲の様子 ・動物の冬ごもり ・落葉樹 ・野外観察 3. 冬の保健衛生について話し合う。(1) ・健康 ・服装 ・暖房	6
二 次	冬 の 遊 び	1. 冬の戸外での遊びを話し合い、たこつくり、たこあげをする。(4) ・こままわし ・はねつき ・竹馬 ・洋だこ 2. 冬の室内での遊びを話し合い、すごろくをつくり、すごろく遊びをする。(5) ・カルタとり ・トランプ ・すごろく (おもいですごろく、電車すごろく、地名すごろく) 3. 室内でのいろいろな冬の遊びをする。(学部ゲーム大会)(4)	13 本 時 ( $\frac{9}{13}$ )
三 次	年 末 の よ う す	1. 年賀状を書き、投函する。(3) ・年賀状の意義 ・あて名書き ・投函 2. くれの街の様子について話し合い、見学する。(6) ・歳末助け合い ・大売り出し ・広告のちらし ・商店の飾り 3. クリスマス会にむけて計画・準備をする。(4) ・飾り作り ・飾りつけ ・材料の買い出し ・ケーキづくり 4. クリスマス会をする。(5) ・すきやきづくり ・レクリエーション	18
四 次	冬 休 みの 生 活	1. 一年間の反省をする。(1) 2. 冬休みの生活について話し合い、計画をたてる。(2) 3. 年末・年始の行事や生活について話し合う。(1)	4

## 5. 本時の指導

### (1) 目 標

すごろくの遊びかたやルールがわかり友だちと協力し楽しく遊ぶことができる。

### (2) 個人目標

生徒名	学年	性別	目 標
K T	1	男	ルールがわかりこまのすすめかたがわかるようになる。指示どおり活動できるようになるとともに友だちにも教えることができるようになる
S C	1	女	友だちと協力して楽しく学習に参加できる。さいころの目の数にあわせてこまをすすめることができるようになる。
M K	2	男	友だちと協力して楽しく学習に参加できる。さいころの目の数にあわせてこまをすすめることができるようになる。
S J	3	男	すごろく遊びのルールがわかり友だちにも教えることができる。
C S	3	女	友だちと協力して楽しく学習に参加できる。さいころの目の数を3まで数えることができる。

### (3) 指導にあたって

生徒たちは前時までおもいですごろくを協同で製作してきた。本時はそのすごろくを使ってのさいしょの学習である。すごろく遊びについての調査ではどの生徒もすごろく遊びの経験はしている。本時で使うすごろくは4月以降生徒たちが楽しく経験してきた行事をもとに製作したおもいですごろくである。歌、おどり、動作をする箇所をもうけて行事と関連した具体物等をおき、楽しく生き生きとした学習活動をさせたい。またすごろく遊びをより楽しくもりあげるために成績表をつけて生徒の競争心をおこさせたり年の暮れにふさわしい音楽をかけたりしながらふんいきを高めていきたい。個性や能力などの個人差の大きい生徒たちであるので遊びのできない生徒にはできる生徒が教えるなど友だちとのかかわりあいを深めさせたい。とくにかねての学校生活で友だちとのふれあいや結びつきの少ないS・C、M・K、C・Sについては本時のすごろく遊びを通して友だちとの協調性や積極性を身につけさせていきたい。

### (4) 準 備

すごろく、さいころ、こま、成績表板、信号機、はんどう、うきわ、メダル、はちまき、虫かご、あみ、もち、カセット、くじ、みかん、パン、いも、もち、くちなしの木、写真、絵、クリスマスツリー

## (5) 実 際

過程	学 習 の 流 れ	指 導 上 の 留 意 点	教 師 の は た ら き かけ
導 入	1. 本時の学習について話しあ う。 2. 準備をする。 ○ すごろくをひろげる。 ○ 用具の配置をする。 ○ 本時のめあて  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             楽しくすごろく遊びをし よう。           </div>	○ 前時までのすごろくづくりを思い 出させ、すごろく遊びへの意欲を もたせる。 ○ すごろくが大きいので「印」のと ころにおかせる。 ○ 用具の分担をしておかせる。	○ 行事のすごろくを見せて、おもな 行事の名まえを発表させる。 ○ 教師は指示しながら生徒といっし ょにひろげる。 ○ 置く場所のわからない生徒にはて つだう。
展 開	3. すごろくのしかたを説明す る。 ○ ルールについて ○ さいころのふりかたについ て ○ こまのすすめかたについて  4. すごろく遊びをする。 ○ くじで順番をきめる。 ○ 一番の生徒からさいころを ふる。 ○ さいころの目を数える。 ○ 目の数だけこまをすすめる。 ○ 指示のある箇所きたらそ れに従う。 ○ 以下、二番、三番、…とつ づけていく。  ○ 途中でさいころを中断して成 績を比べる。 5. 成績発表をする。	○ 順番にさいころをふりでた目の数 だけこまをすすめ指示があれば従 うことを確認させる。 ○ 安全のため→印の方へふるように 指示する。 ○ こまのすすめかたや指示の内容を 数えあえるようにペアをくませる。 ○ すごろく遊びのふんいきをもちあ げるために音楽をながす。 ○ 進行をすみやかにするため順番に 座らせる。 ○ 友だちのさいころのふりかた、で た目の数、こまのすすめかたに注 目させる。自分のこまのすすみぐ あいとの比較をさせ競争心を高め る。 ○ こまのすすめかたができない場合 進行をスムーズにするため、K・T S・J教師がいっしょにすすめる。 ○ 指示のある箇所では写真や実物に 注目させ、楽しい行事を思い出さ せながら元気よく活動させる。 ○ 成績表で順位を確認させ、後半が んばるようにはげます。 ○ 成績表で順位を理解させる。みんな なかよくがんばったことをほめて やる。 ○ 「あがり」でお正月の歌を歌わせ る。	○ 教師が実際にしながら説明してい く。 ○ 教師がふってみせる。 ○ ペアはS・JとS・C、K・TとM・K、 C・Sと教師とする。 ○ 年のくれにふさわしい歌 お正月、きよしこの夜、ジングル ・ベル他 ○ 進行をS・Jにきめてゲームをスピ ーディに展開させる。 ○ 教師はこまのすすみぐあいの成績 表「磁石板」を用意する。 ○ こまが有利にすすむときは手をた いたたり、不利な場合は少々オギ りに残念がってみせる。 ○ こまをいっしょにすすめる場合、 必ず声をだしてリズムよくすすめ る。 ○ 指示のある箇所では、とまった生 徒が答えられるような質問を用意 しておく。 ○ 順位は磁石の数(長さ)で理解さ せる。 ○ 冬休みや正月にも家族や友だちと 別な種類のすごろくを楽しむよう に話をしてお正月の歌を元気よく 歌わせる。
終 末	6. 本時の反省をする。 ○ 反省をする。 ○ 次時の予告をきく。  7. 後始末をする。	○ 感想を発表させる。 ○ 明日のゲーム大会では、他のすご ろくやゲームをすることを知らせ 興味をもたせる。 ○ すごろくが大きいのでみんなでた たませる。実物は明日使うので一 箇所に集めさせる。	○ 教師の質問に「はい」「いいえ」で 答える。 ○ 他の組のすごろくの内容をかた んに紹介する。 ○ 明日使えるように、始末のしかた を指示する。

児 童 ・ 生 徒 の 活 動					
見 る	聞 く	話 す	行 動	表 情	そ の 他
<ul style="list-style-type: none"> <li>○C・S・S・Cはすごろくの写真を興味深くみている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の説明をよく聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はじまりのあいさつ</li> <li>○2,3の行事名を言う。</li> <li>○S・J, K・Tは用具のおく場所を話しあっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○すごろくをひろげる。</li> <li>○用具をとってきてそれぞれの場所におく(S・JとK・Tは自分たちです。他の3人は教師の指示でおく)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○M・K, C・S, S・Cは不安そうにして指示を待っている。</li> <li>○S・JとK・Tはいきいきとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○用具 くちなし, 信号の標識 貝, 絵, はんどう, うき輪, メダル, はちまき, 虫かご, あみ, はこ(3こ), もち, クリスマスツリー</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師のするところを見ている。</li> <li>○順番のくじを見る。</li> <li>○他の生徒のすごろくをするところをじっと見ている。</li> <li>○途中の成績順位を見て比較する。</li> <li>○成績表を見て比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ルールの説明をよく聞いている。</li> <li>○自分の順番が呼ばれるのを聞いている。</li> <li>○他の生徒のさいころの目の数をいうのを聞いている。</li> <li>○S・C, K・T, C・Sはこまのすずめかたの説明を聞く。</li> <li>○指示文を読むのをきく。</li> <li>○順位を聞く。</li> <li>○順位を発表を聞く。</li> <li>○次は全員がゴールにつくまですることを約束する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○S・Jが順番をよぶ。</li> <li>○呼ばれたら返事をする。</li> <li>○S・J, K・T, 教師はこまのすずめかたを説明する。</li> <li>○指示文を読んでみんなにきかせる。</li> <li>○順位をいい合う。</li> <li>○S・Jが順番をいう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○順番のくじをひき自分の座席にすわる。</li> <li>○呼ばれた生徒はさいころをふり, 目の数を数えこまをすすめる(S・J, K・Tは一人のできる。他の3人はできないので, S・JはS・Cに, K・TはM・Kに教師はC・Sにてつだってこまをすすめたり, 指示文を読んだりする)</li> <li>○ポーキポーキとドラエモンのおどり, 春がきたの歌, 応援を全員でする。</li> <li>○K・Tが1番目にあがる。</li> <li>○C・Sが2番目にあがりについたときおわる。</li> <li>○お正月の歌を歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○S・Jはさいころので目をみてすぐにすすむ箇所と指示文の予測がたち喜んだりする。</li> <li>○K・Tはこまをすすめてから指示文を理解するがあまり表情にださない。</li> <li>○M・K, S・C, C・Sは説明されてから喜びを表情にだす。</li> <li>○S・C, C・Sは楽しそうにやるがM・K, K・T, S・Jははずかしそうに歌いおどる。</li> <li>○元気よく歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○K・Tはさいころをふる方向をよくまちがえる。</li> <li>○K・Tは途中でなん回かM・Kをはげます。</li> <li>○C・Sは途中で大きなあくびをする。</li> <li>○S・Cは後半になって, 自分の番でないときは眠そうにしてあくびをする。</li> <li>○M・Kはさいごまで動き迷いがみられた。</li> <li>○S・Jは途中から進行がのろのろしてくるとたいくつそうにしていた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の生徒の感想を聞く。</li> <li>○1,2組のすごろくの内容と次時の予告を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感想を言う。</li> <li>○おわりのあいさつをいう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後始末をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少し疲れた表情</li> </ul>	

(6) 考 察

中学部では「動き」について、外的・内的な人間の活動における基本的な行動をすべて包含し、集団生活・社会生活においては周囲の人々との相互関係を保てる行動であるにとらえた。そして、生徒の実態にたつて

1. 集団の中での人と人のかかわりあいを大切にする。
2. 自発的な活動を促進させる。

の2点を研究の視点においた。ここでは主としてすごろくづくりの過程とすごろく遊びにおける生徒どおしのかかわりあいについて述べることにする。

ア. すごろくづくりの過程について

実態のところでもふれているが、かねての学級や学部の子の中でのかかわりあいについてのべると、MK, SC, CSは他からの働きかけがないと無為にすごしていることが多く、KTはだれとでもいちはやく仲よくできるが自発性が弱く、SJは活発でだれとでもかかわりあいをもてる。そこですごろくづくりでは全員でとりくむ共同製作とMK, SC, CSの3人だけの共同製作をやってみた。「行事すごろく」にきまったので、4月以降の行事について全員に発表させそれぞれの行事を具体的に思いださせた。紙を切る作業はSJがKTに指示しながら2人ですすめ他の3人は切った紙をのりづけ(教師の指示で)した。文字はSJとKTが書き他の3人は絵をかいた。一つの行事の絵は2人以上でかかせた。それぞれの行事に関係のある品物については全員に発表させてからSJの指示(教師と連絡をとって)4人が準備した。指示文についてはSJ, KTが中心になってSC, CSの得意な歌とおどりを多くとり入れた。写真はSC, CSが中心になって選んだ。地の色ぬりでSCは教師に指示されるとうさそうな様子を見せながら自分でぬっていった。CSは筆をとって教えようとすると手をひいて拒否した。自分の思うままにぬりたかったのだろう。すごろくづくりでの生徒どうしのかかわりあいについてはだいたい次のようであった。

◎…かかわりあいが強い ○…かかわりあいがある △…かかわりあいがほとんどない

SJ → KT◎(命令的)	MK◎(命令的)	CS◎(親切)	SC◎(じょうだん)
KT → SJ○(さげがち)	MK◎(親切)	CS○	SC○
MK → SJ○(さげがち)	KT◎(依存)	CS△	SC△
CS → SJ○(依存)	MK△	KT△	SC△
SC → SJ○(じょうだん)	MK△	CS△	KT△

- (ア) SJはみんなとかかわりをもてるが、SJにかかわりを積極的にもとめる生徒がいない。
- (イ) かかわりかたが親切であれば、相手は依存的ではあるがかかわりあいをもってくる。
- (ウ) MK, CS, SCの3人だけの共同製作においてかかわりあいがほとんど見られないのは製作そのものにかかわりあいを必然的に求める要素が弱かった(あやりのような)。
- (エ) CSとSCが教師の指示をいやがったことは、自分の力で自由にやってみようという積極的な気持ちの表現でよろこばしいことと思う。

イ. すごろく遊びについて

文字を十分に理解していないMK, CSは教師といっしょにし, 他の3人には自分たちで用具の配置をさせた。すぐろく遊びのルールについては教師が示範しながら次のことを説明した。

1. ゲームをする順序 (くじできめる)
2. さいころのふりかた
3. 目の数え方
4. こまのすすめかた
5. 指示文について

SJに進行をさせ, SJとSC, KTとMK, CSと教師の組をつくりゲームをすすめた。本時はすぐろく遊びの第1次につき, ルールを示範しただけではすぐに理解できない生徒もいる。3, 4, 5のルールについてもそれぞれの生徒の実態に即して指導しなければならないのであるが, 本時では組ですることによってゲームをスピーディーにすすめることにし, すぐろく遊びの概要をつかませることにした。KTはMKに教えるうちにKT自身あいまいに理解していた4のルールを覚えた。そして, MKのふってでる目の数に一喜一憂していた。指示文の歌とおどりの箇所ではそれまでたいくつそうにしていたSCとCSがいきいきとなって活動しはじめた。言語・数量をよく理解できず, ルールも十分にわからない生徒にとり歌やおどり, 動作を多くとりいれたことはすぐろく遊びが身体活動や情緒面からより楽しいものになったと考える。

以上 中学部の動きの視点にたって述べてきたが今後の課題として次のことが考えられる。

- かかわりあいを必然的に求める作業, 製作, 遊びの内容を小さなステップをふんで経験させる。
- 自発性のある生徒とない生徒との学習の場を多くつくる。無為にすごしたり, 毎日同じような生活パターンの生徒には指示の形にしることばや行動をおこす機会をもたせる。話しことばのふえてきたMKにたいするまわりの生徒の関心が高まってきたことは喜ばしい。
- ことばや行動で自分から他の生徒に働きかけることのないCS, SCが得意な歌とおどりで他の生徒とのかかわりあいを深めたことは, 今後, それぞれの生徒の長所を見だしそれらを集団の中に生かしていくようたえず配慮しなければならない。
- 自発性のない(と思われる)生徒に安易な方法での手助けはその生徒の自発性をそなうおそれがあるので見通しをたててからする必要がある。